

総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会（第25期・第1回）

議 事 要 旨

日時：令和3年3月24日（水）14:00-16:00

会場：遠隔会議（zoom ミーティング）

出席：大倉（芝浦工大）、小山田（京大）、田中（立命館大）、明和（京大）、安達（シュエ
ールド設計）、應矢（京都国際マンガミュージアム）、尾上（日大）、加藤（東洋大）、北川（サ
イバネットシステム）、坂野（NICT）、坂本（神戸大）、鹿内（亜大）、鈴木（立命館大）、
長谷川（立命館大）、畠中（富士通）、宮地（東京都市大）、李（立命館大）、山口（奈文研）
欠席：土田（東洋大）

議事録

（1）小委員会委員自己紹介

24期から継続された委員15名および新たに加わった委員3名から自己紹介がなされた
（欠席者1名）。

（2）委員長・副委員長・幹事の決定

委員長：田中覚

副委員長：加藤千恵子

幹事：長谷川恭子、鹿内菜穂

（3）議事要旨の提出に関する委員長一任について

議事要旨の作成と、その日本学術会議事務局への提出の委員長一任が了承された。

（4）小委員会委員間のメールアドレス共有について

委員間のメールアドレスの共有が了承された。

（5）第25期活動方針

- 小委員会は、年に3～4回程度開催する。
- 「科学的知見の創出に資する可視化分科会」（以下・可視化分科会）の他の小委員会
と情報共有を進めながら、25期の3年を待たずに、本小委員会が担当する分野にお
いて、可視化分科会が提言をまとめられるよう、小委員会として協力していく。な
お、小委員会で提言案を作成する場合には、昨今の日本学術会議に関する国内情勢

なども考慮し、国民に真に有益な案の提示を心がける。

- 可視化分科会の主催する公開シンポジウムの企画・運営に、小委員会として協力する。公開シンポジウムの開催頻度については、可視化分科会の他の小委員会と議論の上、改めて決定する。

（６）文理融合可視化に関する調査報告

・大倉典子委員：

感性価値の概念とその重要性、「かわいい」の文化的背景、「かわいい」人工物を構成するための計測および評価、わくわく系かわいい感と癒し系かわいい感に関する実験などに関して報告があった。

・應矢泰紀委員：

マンガ・アニメ作品等に引き継がれた伝統芸能と表現手法の関わりについて報告された。日本のマンガ・アニメ・特撮における姿・形、属性、物語、世界観における演出の基礎が歌舞伎にあることなど具体例を挙げながら説明された。

（７）文理融合可視化に関する提言作成の方針

委員長より、文理融合可視化に関する提言項目(案)のたたき台が、可視化図として提示された（資料 25-1-005a）。今後、この可視化図をベースに議論を進める。

（８）その他

- ・ 4 月以降に次回の委員会の日程調整を行う。